

Spring '13

Vol.

83

(公社) 科学技術国際交流センター会報

www.jistec.or.jp

JISTEC Report

Japan International Science & Technology Exchange Center Quarterly Report

御あいさつ

科学技術国際交流センターの公益社団法人への移行について

Article 1

外国人研究者のための震災支援マニュアルについて (調査報告)



科学技術国際交流センターの 公益社団法人への移行について

政府の公益法人制度改革により、平成18年6月公布の「公益社団法人及び公益財団法人の認定等に関する法律」等に基づき、従来の民法に基づく公益法人（財団法人及び社団法人）は一般社団法人・一般財団法人と公益社団法人・公益財団法人に改組されることとなりました。

ただし、既存の社団法人及び財団法人は経過措置により、特例社団法人又は特例財団法人として存続することとなり、法律施行の日（平成20年12月）から5年以内に一般社団法人・一般財団法人又は公益社団法人・公益財団法人に移行申請をしなければならないこととなっております。

科学技術国際交流センター（JISTEC）は民法により認可を受けた社団法人であり、上記法施行後は特例社団法人として従来通りの管理を受けてきましたが、新しい公益法人制度に沿い、早急に新組織に移行が必要と判断し検討を進めてまいりました。事務的な検討及び認定の事務局である内閣府との打合せを経て、平成24年9月25日、第48回理事会及び第31回総会において公益社団法人への移行認定を受けることを決定し、平成24年10月1日内閣府へ申請を提出しました。その後、公益認定等委員会の審査を経て、平成25年3月19日に内閣総理大臣より公益社団法人への移行認定を受けたものです。

公益社団法人への移行認定にあたっては、定款の変更及び諸規定の整備が行われました。定款の変更にあたっては、次の主要事項が変更されています。

①名称

この法人は公益社団法人科学技術国際交流センターと称する。

②役員

法人の役員を10名以上20名以内の理事及び2名以内の監事を置くこととする。

（従来は20名以上30名以内の理事を置くこととされていた）

③参与

会長は、理事会の承認を得て、任意の機関として参与を委嘱することができる。

（従来、置かれていた評議員は廃止される）

以上のような経緯を経て、科学技術国際交流センターは、平25年4月1日より、公益社団法人としてスタートすることとなりました。従来の科学技術国際交流センターの目的及び事業は公益性に資するとの判断を得たところであり、当センターとしては、新しい公益社団法人としての位置づけを得て、従来業務に一層邁進してまいり所存です。

今後とも当センターに対する御支援、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

Contents

JISTEC Report ● 83



02 御あいさつ
科学技術国際交流センターの
公益社団法人への移行について

03 外国人研究者のための
震災支援マニュアルについて
（調査報告）

06 JISTEC NEWS
▶ 第5回
キャンドルライトディスカッション

08 JISTEC NEWS
▶ 第20回 Winter Institute
プログラム

08 報告
ホームページリニューアル

09 外国人研究者用宿舎／
二の宮ハウス・竹園ハウス

11 JISTECの生活支援 ―研究者の家族の声
日本体験談

外国人研究者のための 震災支援マニュアルに ついて（調査報告）

調査の項目

今回の調査では、次のような項目の調査を実施している。

- 1 23年度調査と24年度調査の比較（アンケート及びインタビュー）
- 2 公的機関の対応（インタビュー）
- 3 それぞれの機関の外部への期待（アンケート及びインタビュー）
- 4 以上を踏まえての緊急時マニュアルの作成の考え方
- 5 まとめ

以下項目に分けて、解説する。

平成22年3月の東日本大震災において大きな被害を受けた筑波研究学園都市に所在する大学・研究機関に対し、JISTECは標記テーマについて調査（以下「24年度調査」という）を行った。調査時点は24年夏である。特にその直前に、平成23年度文部科学省「外国人研究者受け入れについての調査」（JISTEC実施。以下「23年度調査」という）で被災半年（23年秋）時点での調査を実施しているところから、23年度調査における全国とつくば地区の比較、さらにつくば地区における23年度調査と24年度調査を比較し、震災対応がどのように進んでいるかを分析した。具体的には「外国人研究者のための震災支援

マニュアルおよび情報伝達に関するモデル開発」（新技術振興渡辺記念会平成23年度下期科学技術調査研究助成課題）として発表するが、今回は調査の概略を示すことにする。

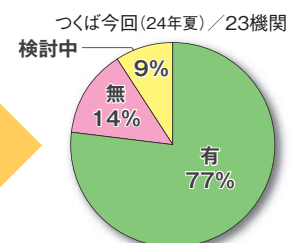
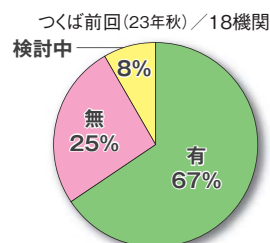
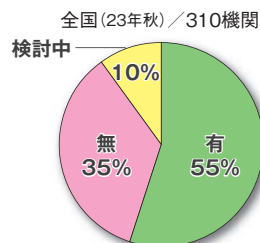
1 各機関における 23年度調査と 24年度調査の比較

これは大学及び研究機関自身が取っている措置について回答を求め

たものであるが、いずれの項目についても、23年度調査においては全国平均よりつくば地区は優良な回答が出ており、また、筑波においては23年度調査より24年度調査で改善されている。

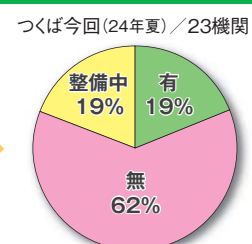
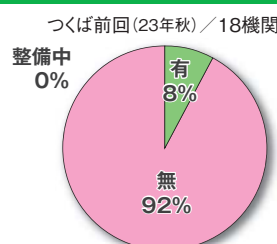
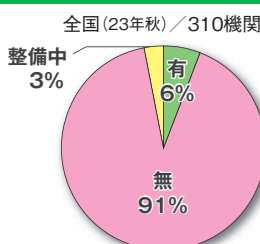
主要な項目において、23年度調査の全国平均、同つくば地区、そして24年度調査（つくば地区）における調査結果を示す。

◇1：緊急時における外国人研究者への情報伝達責任者

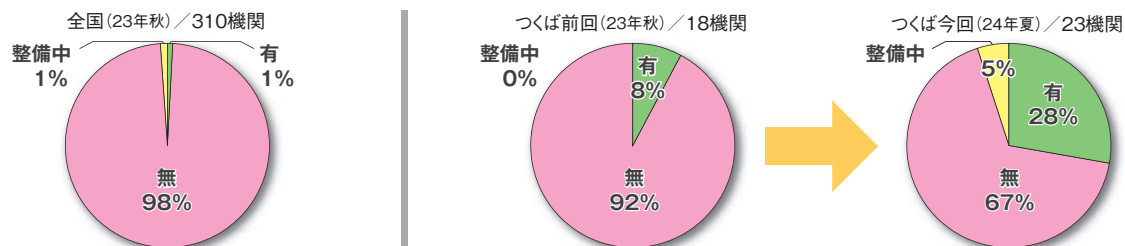


※全国及び筑波前は平成23年度文部科学省「外国人研究者受け入れについての調査」（JISTEC実施）

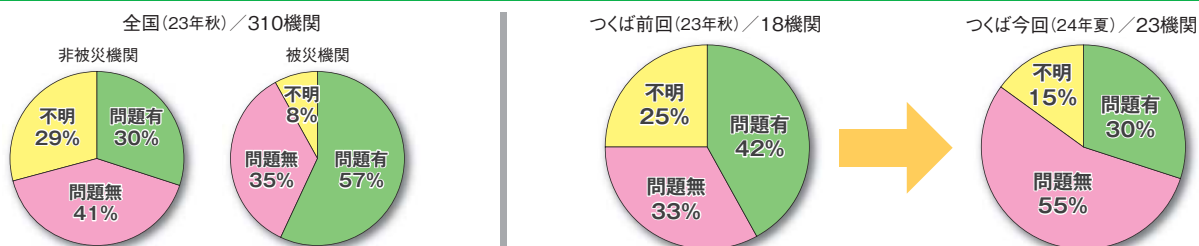
◇2：緊急時を含んだ職員向けマニュアルの有無



◇3：緊急時対応を含んだ職員向け研修の実施状況



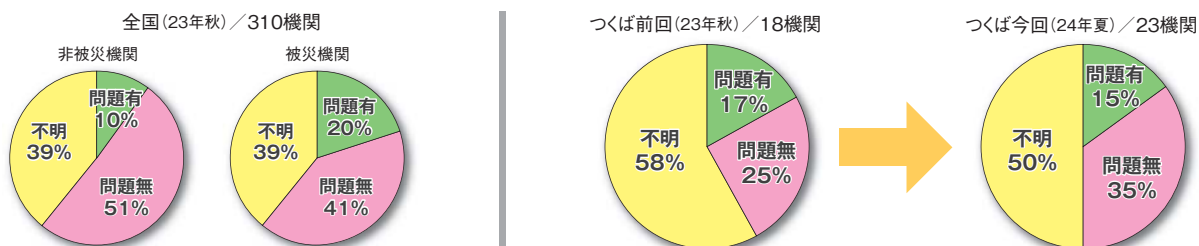
◇4：外国人研究者や家族の安否確認に関する問題の有無



◇5：その他危機対応の種類に関する問題の有無

● 宿舎建物や家具等諸設備の物損、水道、下水、電気、ガス、電話、宿舎エレベーター等について質問したが、以下では代表例として、飲料水等諸物資の貯蔵についてを掲げることとする

<飲料水等諸物資の貯蔵について>



23年度調査（アンケート及びインタビュー）を含めて摘出された個別の項目では、特に問題点が残っている項目を掲げると次のとおりである。

①危機対応の問題への対応では多くの項目が問題なしとされたが、外国人研究者や家族の安否について、努力はされているものの、特に家族の安否確認については対応が少なからず困難であることが示された。

②マニュアル・ハンドブック（職員向け、外国人研究者向け）の整備は進んでおらず、研修（職員向け、外国人研究者向け）も過半数が行われていない。

2 公的機関の対応（インタビュー）

24年度調査においては、23年度調査で実施しなかった公的機関の対応

についても調査を行った。具体的には、茨城県、県国際交流協会、つくば市にインタビュー調査を行ったものであり、次のような事項について対応が図られたことが聴取された。

- ①翻訳者ないし外国語（特に8言語程度）で対応できるスタッフの確保
- ②情報提供のホームページや放送の確保

- ③生活支援と相談窓口の一体化
- ④お互い支援し合うコミュニティやボランティアの組織化

3 それぞれの機関の外部への期待

今回調査においては、**1**の各機関における調査と**2**の公的機関の対応調査の他に、それぞれ、研究機関から見た公的機関への期待、公的機関から見た研究機関への期待も聴取した。この種の調査で、エアポケット的に漏れ落ちる対策を浮かび上がらせることができた。

- ①マニュアル、研修、体制
マニュアルの作り方には様々な意見があり、また研修については公的機関の研修を活用することがのぞまれた。また、研究機関や公的機関以外の支援体制が提案された。

②安否確認

①の中でも、安否確認体制については切実なものがあり、公的機関からは研究機関においてしっかり確認してほしい旨の要望が強かった。

③情報提供

情報については、災害情報、避難情報、生活情報等についてキメの細かい提供がのぞまれ、最も多くの意見が寄せられた。

4 緊急時マニュアルの作成の考え方

以上**1**～**3**を踏まえて、今後必要とされる緊急時マニュアルの作成の

考え方を取りまとめた。

- ①外国人研究者及び家族の立場に立った緊急時マニュアルとすること。

※簡易版と詳細版などのように目的に応じて使い分けられるものとなっていること。

※断片的なマニュアルではなく統合して使えるマニュアルとなっていること。

※詳細版では現場において使用できる具体的な情報を記載してあること。特に言葉の問題についてはきめ細かく配慮されていること。

- ②マニュアルは出来る限り広く研究者や家族の目に届くように普及すること。

- ③マニュアル利用のための研修（あるいは訓練）を実施すること。

5 まとめ

以上を取りまとめ、外国人研究者に対する対応として特に重要なものを精査し、次のような提案を行った。

(1)安否確認等

外国人研究者の安否確認、特に家族の安否については対応が極めて困難である。住宅問題（専用宿舎であればある程度対応が可能であるが、十分な宿舎がない）、外国人支援問題（外国語によって支援業務を実施できる人材が少なく、一方外部に包括的に委託するには予算措置が困難である）などの根本的問題が存在しているためである。

ただし、つくば地区においては国際戦略総合特区に指定されたことから、個々の研究機関を超えて特区対象機関全体に対する生活支援が期待される。

(2)マニュアル・ハンドブックの整備、研修の実施

マニュアル・ハンドブックの整備と研修については、研究機関の協力や、公的機関の誘い水的な政策によりある程度対応が可能と考えられ、多くの研究機関が所在する筑波地区のような地域では機関の努力がのぞまれるところである。

しかしながら、個別の機関で完璧なマニュアルを作成することは困難が多く（例えば短期間に多くの修正が発生しメンテナンスが難しい）、特につくばのような一定の地域に研究機関が密集する環境にあっては生活支援関係の情報（病院、市役所等の所在や利用情報）が機関ごとに重複することが多く、むしろ地域共通情報を基盤として整備し、それに機関ごとに必要となる個別情報を付加する方が効果的である。

このような観点から、特に、つくば国際戦略総合特区においては、特区事業の一環として、つくば市内に散在する多様なWEBサイト等も統合して、使いやすく、安価にメンテナンスできる「総合的生活支援サイト」を作成することが検討されている。

1 第5回 キャンドルライトディスカッション「睡眠・覚醒の謎に挑む」

●柳沢 正史 教授（筑波大学／テキサス大学サウスウェスタン医学センター）

JST外国人研究者宿舎二の宮ハウスでは、平成23年度より年に3回程度“キャンドルライト・ディスカッション”として研究者が専門知識を交換し合える場を提供しています。通算5回目となる今回は2013年1月25日に開催され、○ 20カ国から47名が集まり、和やかな雰囲気の中、興味深いレクチャーと活発な質疑応答が繰り広げられました。誰にとっても身近で不可欠であり時には困らせられることもある睡眠と覚醒の謎について、少々専門的な講演概要をご紹介します（本記事は英語で行われた講演内容をJISTEC Report用に概略化したものです）。

睡眠の重要性やその機能、役割の謎

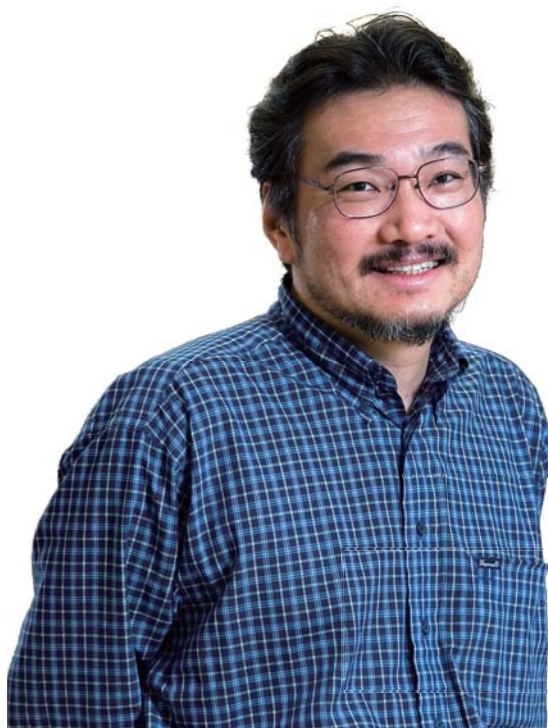
— これを口火に柳沢教授のレクチャーが始まった。

野性動物にとって睡眠は大きなリスクを伴う行動であり、進化論的には睡眠を必要としない動物がいてもおかしくないと推察できるが、これまでそのような種は発見されておらず、睡眠が生物にとっていかに重要な生命維持活動として機能しているかを伺うことができる。睡眠状態は客観的に計測することが出来、その規則性についても明らかになっているところであるが、仮説は幾つかあるものの、睡眠の役割は未だ詳らかに解明されていない。睡眠には3つの調節システムが働いている — 一つは「ホメオスタシス制御」という、長く覚醒しているとより眠くなるという調節（徹夜明け）、次に「サーカディアン（概日）制御」という体内時計に基づく睡眠の規則性をつかさどるもの（時差ボケ）、そして3つ目に危険状態や心理的興奮などにおいて眠気を

を一時的に抑制するシステム — が、眠気の仕組みについて、神経科学的な基盤がどうなっているのかはまだブラックボックスのままである。

先頃発見された「オレキシン」とは、視床下部において少数のニューロン細胞により産出されるおよそ30のアミノ酸から成り立つ神経伝達物質の一種である。マウス実験による遺伝子操作でオレキシンを作る遺伝子を破壊した「ノックアウトマウス」は、自然の睡眠時間外に急に眠り込むことを示した。

睡眠覚醒の調節異常の切り替え、いわゆる睡眠障害を「ナルコレプシー」といい、1000～2000人に1人の割合で、ナルコレプシー異常が発生するが、殆どの患者にこのオレキシン生産細胞がなくなっている状態がみられる。ナルコレプシー患者の症状は大きく二つ適切な覚醒状態が持続できないことおよび脱力発作に分かれる。通常において、人は入眠後、ノンレム睡眠を経て90分後からレム睡眠に移行するが、ナルコレプシー患者は覚醒状態から突如レム睡眠に陥ることがある。このことから、



やなぎざわ・まさし

1988年、筑波大学大学院医学研究科博士課程修了後、筑波大学基礎医学系薬理学講師等を経て、1991年、テキサス大学サウスウェスタン医学センター准教授兼ハワードヒューズ医学研究所准研究員（1996年教授兼研究員）。1998年、テキサス大学サウスウェスタン医学センターThe Patrick E. Haggerty Distinguished Chair in Basic Biomedical Science 就任。2003年、米国科学アカデミー正会員に選出される。2010年、内閣府最先端研究開発支援プログラム（FIRST）中心研究者（2014年3月まで）、筑波大学教授。2013年12月より、筑波大学国際統合睡眠医科学研究機構（文部科学省「世界トップレベル研究拠点プログラム（WPI）」機構長。

オレキシンは睡眠と覚醒のスイッチを安定させる物質であると考えられ、マウス実験で神経を光刺激したところ、覚醒作用が観察された。

この他、オレキシンが欠乏している患者のBMIは平均値より高いことから、オレキシンには代謝率を上げて体重を抑制する作用があると考えられる。

その作用状況や影響をよく理解することにより、オレキシンをナルコレプシーや不眠症の治療、夜間労働者の補助、さらに肥満の治療に役立てることができると考えられる。実用化のためには経口薬が理想であるが、オレキシンはタンパク質のため、胃で消化され脳に到達させることができない。この問題をクリアするため、教授率いるチームはおよそ250,000の化合物ライブラリーを検査し、脳通過を可能とするオレキシン受容体に作用する化合物を探索した。

柳沢教授らは、オレキシンに作用が似ているオレキシン作動薬を探索しており、作動薬が発見されればナルコレプシーの治療だけでなく、将来的には肥満やメタボリックシンドローム治療効果も期待される。ナルコレプシー患者数が稀であるため製薬会社はオレキシン作動薬にあまり関心を示さないが、不眠治療のため開発されたオレキシン拮抗薬は臨床試験の第3相を終了し、早ければ今年中には新薬が上市されるであろう。この新薬は副作用が少なく、現在流通している不眠薬剤と違いGABA-A受容体に作用しないため、新しい治療薬としての効果が期待されている。



最後に、スクリーニングにより睡眠に異常をきたすマウスの家系が複数見つかってきている。ランダムにDNAを突然変異させたマウスの睡眠パターンを記録することで、遺伝子変異による睡眠過剰と睡眠不足の表現型を同定でき、睡眠制御に関わる重要な遺伝子を発見する可能性があり、こちらについても研究の成果が期待されている。

○ 約1時間半の講演後、参加者達からは時間が足りなくなるほどに多くの質問が寄せられ、日頃の睡眠に対する興味が強く伺えました。ユーモアを交えながらの柳沢教授の応答はサロンを談笑でつつみ、非常に好評の中、第5回キャンドルライト・ディスカッションは幕を閉じました。



- 平成24年度の文部科学省「世界トップレベル研究拠点プログラム（WPI）公募において、筑波大学「国際統合睡眠医科学研究機構（IIIS、International Institute for Integrative Sleep Medicine）」が採択されました。柳沢教授は同機構の拠点長に就任され、睡眠研究に関わる国内外の有力研究者とともに、睡眠メカニズムの基礎的解明をすすめるなど、その研究にさらなる活躍が期待されています。

2 第20回 Winter Institute プログラム

今回で20回目となるウインター・インスティテュートプログラムも無事終了いたしました。

今回のプログラムは予算の制約などもあり、例年より少ない5名の韓国人研修生を受け入れました。募集人員が少なく例年に比べ寂しいものとなりましたが、参加された研修生はよくまとまり仲良く研修期間を過ごせた様子でした。みなさん、研究活動はもちろん日本でのネットワークづくりも大変上手にできたようです。これからの日韓両国の強力な架け橋となってくれることでしょう。

今回のプログラムにご協力いただいたホスト研究機関、研究者の皆さんを始め関係者の方に深く感謝申し上げます。



ホスト研究機関は、次のとおりでした。

- 独立行政法人 産業技術総合研究所
- 独立行政法人 情報通信研究機構
- 独立行政法人 理化学研究所
- 国土交通省 気象研究所
- 独立行政法人 宇宙航空研究開発機構

【滞在中のスケジュール】

- 1月7日（月） 来日、OBとの交流会
- 8日（火） 開講式、歓迎会、日本語研修
- 9日（水） 研究研修活動開始
- 26日（土） 課外研修（日本文化体験）
- 2月14日（木） 研究研修活動終了
- 15日（金） 報告会、修了式、歓送会
- 16日（土） 帰国



報告

ホームページリニューアル！

公益法人移行に伴い、JISTECのホームページ（<http://www.jistec.or.jp>）をリニューアルしました。

JISTECの事業活動をカテゴリーごとに分かりやすく紹介するとともに、これまで取組んできた調査研究事業の報告書等を簡単にダウンロードできるようにしました。

皆様のご意見、感想をお待ちしています。



外国人研究者用宿舎 | 二の宮ハウス・竹園ハウス

■居住者からの発信

Claudia Rodriguez Aranda

クラウディア・ロドリゲス・アランダ博士

●メキシコ出身。

独立行政法人 産業技術総合研究所

私はクラウディア・ロドリゲス・アランダといいます。メキシコ出身ですが、長い間スカンジナビアに住んでいます。夫のアンダースはスウェーデン人ですが、彼もまた他の西洋諸国で人生の半分以上を過ごした、様々な国の要素を持ち合わせた国際人です。ということで私達は、文化の違いや新しい環境には慣れています。私達の仕事は学術的・科学で、ノルウェーの最北にある大学で学生に授業をし、また研究を行っています。私は人間と、夫は齧歯類と仕事をしています。厳密に言えば北極ではありませんが、北極圏から北へ数キロのところに、美しい自然に囲まれ、長い冬はずっと雪に覆われた私達の住む小さな街があります。そこは、冒険心や好奇心の旺盛な人々にとっては最高の場所です。

幸運なことに私達は特別有給休暇を取得し、客員研究員として来日することができました。日本に長期滞在することはとても魅力的で、抵抗は全くありませんでした。来日に向けては、受入研究機関である筑波大学、産業技術総合研究所と連携・協力しながら、時間をかけて着実に計画が立てられました。

そして2012年9月に来日が実現したのです。しかしながら私達は、成田に降り立ったその時から、非識字者として対処方法を学ばなければならませんでした。私達は程なくして、英語を話せる人が少ないということ、それと同時に、思いやりのある人々やイラストを使ったわかりやすい看板もたくさんあって、殆どの行動が可能であることもわかりました。二の宮ハウスに到着すると、殆どのスタッフが英語を話し、至る所に英訳された情報が溢れていました。私は、紙壁や日本のウォシュレットにも魅了されました。事務所のスタッフは、

徹底した情報と、熱心なサービスを提供してくれています。生活を立ち上げるにあたっては、職場



両国のちゃんこ鍋屋の土俵 (バスツアー)

クラウディアさんとご主人のアンダースさん
(マクロビオティック料理教室)



でのID取得、銀行口座開設、携帯電話の購入、食料品店を見つけることなどで数週間を要しましたが、一つ一つのステップが楽しめました。その頃つくばは、息が詰まるほどの猛暑が続いていました。

そしてもう一つ、私達には重要な問題がありました。日本の食品は、ノルウェーと比較して全く新しい世界であったということです。私達はお寿司が大好きなのに、日本の食物を全く知らなかったのです。多くの意味で、食物は今日においても尚、生活の神秘的な部分です。来日してから私達は様々な食事を楽しんでいますが、いまだに何を食べているのかわからない時があります。美しく盛り付けられた会席料理は、食材など全くわかりません。見た目も味も、手がかりにはならないのです… 願わくは、数日後二の宮ハウスで開催されるマクロビオティック料理教室で、少し道が開けてほしいと思っています。

ここで、二の宮ハウスでのイベントを3つ書きたいと思います。まずは、初心者のための日本語教室。この教室のおかげで、日本語の基礎と基本的な知識を得ることができました。今では、音や表現はわかるようになり、ひらがなも読めるようになりました。また他の居住者とも出会い、たくさんの若者が同じハウス内に滞在していることも知りました。

二つ目は、来日1ヶ月後に参加した柴又行きのバスツアー。行く前は何のことかわかりませんでしたが、このツアーにはとても深い意味があったのです。まず向かった風鈴本舗では、吹きガラスの見学と絵付け体験だったため、子供がいる家族向けのツアーだったのかなと正直思いました。でもこれはツアーのほんの始まりに過ぎなかったのです。風鈴本舗を去って次に向かったのは、大相撲で有名な両国にあるレストランです。そこはとても素敵ところで、中央には土俵があり、椎茸がたっぷり入った本当の「ちゃんこ鍋」を堪能し

ました。次に訪れた江戸東京博物館では、江戸や日本の歴史を多く学ぶことができ、とても有意義に楽しく過ごしました。私達が最も感銘を受けたのは、日本の版画の芸術を目の当たりにできたことです。私達は大変気に入って1つ購入しました。博物館の後、バスは柴又へと向かいました。バスの中で、柴又は、映画の主人公「寅さん」で有名な街であることを聞き、ガイドの詩的な説明を時折はさみながらビデオを鑑賞しました。面白い映画でした。美しい女性を見るとたちまち恋に落ちるものの、決して実ることのない寅さんの悲劇はとても興味深いものでした。柴又は、商店街、お寺、そして寅さんの像がある人情味溢れる街でした。つくばに戻ってから私達は、職場で寅さんのことを尋ねることにしました。日本人は皆寅さんを知っていて、現代文化にも関連していることがわかり



柴又に立つ寅さん像（バスツアー）



二の宮ハウス9Fサロンでのパーティ

ました。そして私達は、このバスツアーがとても文化的なものであったことを実感したのです。

三つ目は、私達自身が企画したパーティのことにありますが、これは二の宮ハウスの施設なしでは成し得ることができなかったイベントです。12月中旬、私達はスウェーデンの休日「聖ルチアの日」を祝うことにしました。元々はイタリアのお祝いですが、現在ではスウェーデンやスカンジナビアでも大切なクリスマスイベントで文化の一部になりました。私達は、二の宮ハウスの1階にある大きなキッチンで料理をし、9階のサロンに移動してパーティをすることにしました。それぞれの研究室の同僚や日本語教室の仲間たちを招待し、とても盛大なお祝いとなりました。その日は、二の宮ハウスで日本人が外国人よりも多かった唯一の日です。たくさんの手

土産、食べ物、お酒を持ってきてくれるお客様達にも、本当に驚きました。この日の国際的な晩餐会は、実に楽しく、特別な「聖ルチアの日」として私達の記憶に残ることでしょう。

私達は今、桜の季節をととても楽しみにしています。残念ながら二の宮ハウスの中庭に桜の木はありませんが、バーベキューができるのですから。

料理教室

3月1日、竹園・二の宮ハウスの居住者を対象に、料理教室を開催しました。料理教室は年に2回開催している恒例のイベントで、第25回を迎えた今回は、つくばで料理教室を主宰している椎名さんのご指導の下、マクロビオティック料理に挑戦しました。マクロビオティックとは、主食を玄米や雑穀とし、副菜を野菜や豆、海藻類とする、バランスを重視した日本発祥の食事法ですが、現在ではヨーロッパやアメリカでも広まっており、たくさんの著名人が日常で実践しています。厳格なマクロビオティック料理も数多くありますが、私達

は作りやすく食べやすいメニューにしたいと考え、大豆から揚げの酢豚風、小松菜のおひたしの海苔和え、玄米ご飯、具だくさんの豆乳味噌汁の4品を作ることにしました。

参加者全員が全工程を把握できるよう、3つのグループに分かれ、食材を均等に分配しました。講師の見様見真似で大小様々に切られた食材も、最後は色取りも美しく、美味しそうに盛りつけられました。こんなにやくや筍、大豆加工品である大豆のからあげは、大変珍しいと思う参加者も多く、不思議な食感だったようです。玄米は、圧力鍋と炊飯器の両方で炊き、また白米とも食べ比べをして違いを楽しみました。

料理教室は料理を覚えるだけでなく、共同作業の中で言葉や文化を超えた国際交流を可能にします。参加者の中には、自分の研究や母国の話などして、意気投合した方もいたよう

です。このような機会が、時には何かのきっかけとして参加者の一助となれば、企画する側にとってこれ以上の喜びはありません。

14ヶ国、18名の参加者それぞれが、お箸を手にも日本の食卓を温かい気持ちで囲んでくれました。今後も引き続き、楽しく学べるイベントを企画していきたいと思います。





ヤスミン・フリードマン Yasmin Friedmann

●イスラエル出身。東京大学国際高等研究所カブリ数物連携宇宙研究機構 (IPMU) 研究員の夫と共に、2012年10月より滞在。

State of Israel

日本体験談

物理学教授である夫のサバティカル（大学等研究機関における休暇制度）を利用し、10歳、7歳の男の子と3歳の女の子を持つ私達5人家族は日本へやってきました。私自身、来日前は物理学の研究者として仕事をしていましたが、日本では母親兼旅行者として過ごしています。

来日前は色々な準備をしました。

息子達の教育については、1年という短い滞在期間を考えた結果つくばインターナショナルスクールに通わせることにしました。これは大正解で、今では末の娘も学校に顔を出すようになりました。ハイレベルな教育を受けながらちょっとした日本語も覚えてきます。

住む所は松代宿舎にしました。主な家具はあらかじめ借りることが出来たので、日本を出る時に売ったり処分の手配をしたりする必要がなくとても楽です。住居に関しては、JISTECの浜小路アンナさんがとても助けてくれました。彼女がいなかったら私達は路頭に迷っていたことでしょう！松代宿舎は子供に嬉しい庭付きで、広く、すぐ近くには大きな松代公園もあります。松代公園はとても綺麗で季節の移り変わりを楽しめます。

この冬はとても寒く、私達は日本スタイル — 一つの部屋で家族全員が寝る — で過ごし、広い家の小さなスペースしか使いませんでした。そうしている間に、季節はもう春です。

私達家族が日本に来て最初の週末、アンナさんが土浦の



金閣寺と私

花火大会に連れて行ってくれました。花火は本当に素敵で、私達は素晴らしい歓迎を受けているような気分になりました。

私達の日本での生活はとってもシンプルです。食器洗い機はありませんし、乾燥機も定期清掃（筆者の母国では清掃業者が家の掃除を定期的に行うのが慣例的）も車もありません。駅やお店に行くには自転車を使います。日本で特に印象深かったのは公共交通機関がとっても正確で信頼性が高いことでした。私達は東京の美しい公園や神社などといった観光地をお散歩するのが好きで、東京に行きたくなると研究学園駅まで自転車を走らせつくばエクスプレスに乗ります。訪れた神社では子供達の着物姿が可愛らしく、写真を撮るのが楽しかったです。



日本をいろいろ観光した中でも12月の京都旅行は格別でした。本当に寒かったのですが、歴史深い建物が並ぶ魅惑的な町並みに息をのみました。

右の写真は奈良の東大寺で息子が「“ブツダの鼻の穴”くぐり」をした時のものです。

日本ではスタジオジブリの素晴らしいアニメーションにも出会うことが出来ました。「となりのトトロ」は家族皆が大好きで、今まで観た子供向け映画の中でもトップクラスの美しいアニメーションだと思います。

ところで、多くの日本人が十分な能力を持っているにも関わらず、英語を話すことにかなり恐れを抱いていることに気がつきました。彼らはとても親切で友好的なのに、なかなかきっかけを掴めないのです。と思うと同時に、毎月定例的に夜に開催される映画鑑賞会では面白い外国人女性らと知り合うことも出来、色々と話がはずみます。

そして忘れてはいけないのは食べ物の話！基本的に私達

は日本のものを食べます。ねっとりした白いご飯にも慣れました。ちょっとした香辛料を入れて工夫をしてみますが、炊飯器で炊きあがるご飯

の匂いが美味しそうに感じられます。地元の野菜やお魚、大豆やみりんを使ってたくさんお料理をします。けれど時々ヨーロッパのチーズやオリーブ、ファラフェル（豆類をつぶして揚げたコロッケ）を無性に食べたくなります。そんな時はインターネットで買い物をします。家族全員お箸の使い方も覚えました（以前訪れたレストランで正しいお箸の使い方の“教習”を受けました）。最近では写真のような和菓子も楽しんでいます。

私自身はというと、普段の家事をしている時以外は日本語教室に通ったりしています。

最初は東大IPMUの初心者コースに通いましたが、今度はつくば国際交流協会の2段階目のコースが始まります。日本を去るのは半年後ですが、それまでに皆が私に話そうとしていることを理解できるようになりたいです。また、和太鼓も習いたいと思っています。他にも行きたい場所がたくさん 一富士山や 日光、鎌倉や海など、やりたいこともたくさん あって、日本での時間が足りない ほどです！



浅草で夫

東京の深川公園散策後、休憩中の息子達



編集後記

巻頭の通り、JISTECはこの4月より公益社団法人として新たなスタートを切りました。設立以降、当センターのあらゆる事業活動にご支援ご協力をいただいております数多の皆様改めて深謝申し上げるとともに、科学技術の発展を通してより良き未来への一助となるよう、職員一同気持ちを新たに邁進していく所存です。外国人研究者等のための生活支援や関連調査研究、広報や交流活動等、ご興味やご質問がありましたらお気軽に
(H.K)



JISTEC

(公社)科学技術国際交流センター会報

Spring '13

平成25年4月15日発行

発行責任者

公益社団法人 科学技術国際交流センター
〒112-0001 東京都文京区白山5-1-3 東京富山会館ビル5F
TEL. 03-3818-0730 (代) FAX. 03-3818-0750

●本誌に関するお問い合わせは、当センター東京本部までお願いします。

なお、本誌に掲載した論文等で、意見にあたる部分は、筆者の個人的意見であることをお断りします。